

オフサイトミーティングの活用

もう20年前ぐらいのことだが、三重県や横浜市では地方分権改革をリードする首長のもと、行政経営改革を率先して進めていた。そ

り上げられ、活用する職員が出てきた。滋賀県「チョウチョの会」や「東北オフサイトミーティング」など、地域内や外との官民交流の場としてオフサイトミーティングが開催されるようになる。た



本連載は「自治体改善マネジメント研究会」のメンバーが執筆しています。同研究会は自治体で改善運動を推進してきた職員と行政経営デザイナー元吉由紀子が共同で設立。実践事例情報を収集、分析し、ナレッジ化して情報発信している。2017年にNPO法人化。ホームページ、Facebook「自治体改善の輪」を運営。

第46回

オフサイトミーティングを職場で活用してみよう!

組織で活用するプロセスの壁

オフサイトミーティングを組織で活用するにあたっては、いくつかの壁が立ちはだかる。①既存の課題や目標の中では見えなかった問題が見えてくる、②自分の立場や担当を超えた範囲にまで関わりが及ぶ、③問題を解決するためには、組織の意思決定につなげていく必要がある、などだ。

これらの壁を乗り越えるには、組織のトップがしっかりとコミットして、トップダウンで方向づけるリーダーシップとボトムアップで知恵と力を引き出すスポンサーシップを発揮する必要がある。これまで、このマネジメント環境を整えきれなかったことが、組織でオフサイトミーティングを導入し難い要因になっていた。

インベーション時代に活かす

近年では、①消滅可能性自治体の危機や新型コロナウイルス感染症対策など社会課題が続出し、②地域共生社会や公民連携の必要性が高まり、③地方創生総合戦略ではKPIが、人事評価制度の導入では組織目標が設定され、個人目標にま

で落とし込まれるようになった。各職場の所属長には、自職場において日々新しい価値観で仕事を直視し、インベーションを起こす必要性が高まっている。

そこで、スコラ・コンサルトでは『オフサイトミーティング 仕事の価値を高める会議』の出版を機に、今年度から「公務員のオフサイトミーティング場づくり実践セミナー」をWEB開催することにした。すると、休日夜間にも拘わらず有志が集まってきた。

セミナーでは、オフサイトミーティングを「会議の補助輪」と位置づけ、通常の立場・肩書からはみ出た問題や関係を築くために職場で活用しやすく解説。また、「場づくりチェックシート」を共有して情報の目線を揃えることで、プロセスの壁を乗り越える作戦を立てやすくしている。すると自治体や政策分野が異なっても、参加者が互いに学び合うことができ、係長は係内で、課長は課を連携して、部長や副部長は幹部層で、それぞれの組織単位に応じたオフサイトミーティングを活用する動きが始まった。次はみなさんもぜひチャレンジしてみませんか。

の一環で、新しい理念に基づき組織全体で仕事を変えていくために活用していたのが「オフサイトミーティング」である。

その様子がNHKスペシャルをはじめ、さまざまなメディアで取

だ、「気楽にまじめな話をする場」のスタイルゆえに、実施されていたのは定時後や組織外の場所であり、組織で仕事を変革するプロセスにおいて活用している事例はほとんど聞かれなかった。